

令和4年度宗像市郷土文化学習交流館協議会議事録

- 日 時：令和5年3月16日（木曜日） 15時00分から
- 会 場：海の道むなかた館 講義室
- 出席者：高橋委員、井上委員、升谷委員、松久委員、竹本委員、長友委員、吉井委員
坂梨委員
- 【事務局】 西谷、青木、白木、合島、井上

1 あいさつ

○青木課長

本日は交流館協議会にご参加いただきありがとうございます。1年ぶりの開催となります。今年には世界遺産登録5周年で世界遺産課だけでなく市役所の各課や県と市と宗像大社で形成している保存活用協議会、関係団体みなさんに53の事業を行っていただきました。

今後とも一過性ではなく続けていけるようなイベント、運営を行ってまいります。引き続きよろしくお祈いします。

2 委嘱状の交付

宗像市郷土文化学習交流館協議会委員名簿【資料1】

○事務局井上

むなかた館の地元の玄海地区のコミュニティー協議会で前任の会長の田島さんが交代され吉井会長になられています。

○吉井委員

昨年5月に玄海コミュニティーの会長になりました吉井です。よろしくお祈いします。

3 報告事項

(1) 令和4年度海の道むなかた館来館者の状況について【資料2】

○事務局井上

令和4年度は海の道むなかた館は世界遺産登録5周年、またコロナが幾分緩和された初年度でした。今までのオンライン中心から感染対策を行った上で実際のイベントを行い模索した1年でした。様々なイベントを実施しまして2/11には神楽祭を行い2,353人、10/1のみあれ祭やそれに関連する秋まつりでは1,793人来館されました。このような様々な取り組みがあり現時点では前年度比36.6%増になっております。3月が仮に前年度並みだと33%増になります。コロナ禍前の状況にはまだ至ってはおりませんが5月に5類相当になり、完全に解除になりましたら私たちも来館者増に向けて取り組みをしたいと思ひます。来館者数は現時点で10万2929人でして令和3年度より増えています。来館者の傾向は世界遺産登録前後のツアーというよりも個人が深くむなかた館を含め構成遺産を回っていると分析しています。

市内小中学校来館者数についてですが、令和4年度は令和3年度のオンライン中心から実際に小学校5・6年生を中心にこちらに来館されました。自由ヶ丘小の教頭先生も子ども達と一緒に来館していただきました。世界遺産学習も従来通り戻ってきています。

3番目の体験学習参加数ですが、通常のが玉、火おこし、土笛、古銭鑄造、エコバッグをしていますが、土笛は現時点では飛沫が飛ぶため中止しています。ただ11月は九州歴史資料館で出張の体験学習をし、飛沫対策した上で行いました。

視聴者・体験者数についてですが、シアタールームは来館された方の多くが視聴しています。ガイドンス施設としてハンズオンレプリカの設置をしています。実際に手に取って重さを感じてもらい世界遺産の重みを体感してもらっています。また昨年7月からVRゴーグルをつけて沖ノ島の視聴をしてもらっています。

(2) イベント・講座等の開催状況について【資料3】

イベント・講座等開催状況についてですが今年度は大型イベントを実施しました。具体的にご説明しますと夏の課外授業は夏休み期間中に小学生を対象としたもので様々な体験学習を展開しています。今年度は特に市内の関係団体にご協力いただきながら実施しました。例えば P6 の画像①乗馬体験と古代の馬鈴づくりにあります新たな取り組みで地元のカナディアンキャンプさんと協力して乗馬体験をしました。また馬鈴という遺物がどうやって使われたか、どのように付いていたかをイメージを確かにしてもらっています。画像②テンちゃん辺津宮マップと一緒に朝の宗像大社を見てみようでは宗像大社さんにご協力いただき神職さんから話を伺いました。子どもたちもわかりやすかったと好評でした。また歴史観光ボランティアさんからマップを使いながら主なポイントをクイズ形式で一緒に回って行きました。昨年イベントに際して大社さんも協力するのでご意見をいただいていたので、こういった形でイベントを実施しました。

8/6(土)の貝殻でフォトフレーム作りは、こちらは松久先生や研究室にご協力いただきました。同日の画像③あかりの絵灯籠を作ろうでも、松久先生にご指導いただき実施しました。画像④のペットボトルキャップで手裏剣を作ろうは、津屋崎ベースキャンプという団体で世界遺産と海を守ろうと一緒に活動しています。自転車を漕いでキャップを砕いたものを手裏剣にしました。楽しみながら環境学習してもらおうと地元の協力団体と一緒にやって行ったイベントでした。

P7では久しぶりの開催となった10/1、10/2のむなかた館秋まつりです。大社のみあれ祭と連動してみあれ祭を見に来られたお客様に出来るだけ多く来館していただき、世界遺産を知ってもらいたいとイベントを実施しました。10/1には1793人来館していただき、昨年の来館者が391人でして約5倍弱の来館者がありました。イベント内容はみあれ祭のパブリックビューイングや世界遺産登録に向けた色んな方の想いや活動の記録を上映しました。

P8のカラリズムリサさんのアートパフォーマンスでは大型スクリーンの前で大型のキャンパスに様々な絵を展開してくようなアートパフォーマンスでした。

画像⑥のみんなで灯そう光の灯籠は夏の課外授業で絵灯籠を作り飾ることにつながったものです。

会議録の主な意見で(4)子どもだけでなく大人も楽しめる事業を検討してほしい、(5)継続して来館してもらうためにイベントを実施するだけでなく作った作品を展示して再度来館につながるという意見に沿いまして夏の課外授業や9月のワークショップで絵灯籠を作成したものを体験学習室に展示しまして、夜になって照明を消して灯籠を灯しました。絵灯籠は画像⑦、玄海中学校でのワークショップで作成しました。松久先生にご指導いただきました。玄海中、玄海小、玄海東小の子どもたちが一緒に作成しました。この3校は陸上神幸に参加しますのでみあれ祭ってどういうものなのかをこういったワークショップ通じて理解してもらおう。10/1の夜にみんなで明りを灯して楽しんでもらうイベントを開催しました。

P7の10/1・2むなかたマルシェについてですが意見②の芝生広場を活用してイベントを行うことで、海の道むなかた館の存在をわかりやすくし、大社に来た方を呼び込めるのではないかと意見を踏まえてマルシェを行いました。P8の画像⑧に市内の事業者にご協力いただき芝生広場でイベントを行ったわけです。様々な方のご協力の元1,793人の来館につながりました。

P8～9の冬まつりについてですが、こちらにも様々な事業者さんと協力して実施しました。画像⑨で門松をつくろう、画像⑩のしめ飾りをつくろうでは地域学芸員を中心に行いました。こちらは大人も体験できるようにと企画し、たくさんご参加いただきました。

画像⑫のレゾエミリア交流展は松久先生にご協力いただき行っていますがこれと連動して画像⑩イタリカラーで缶バッジをつくろうも行いました。写真では子ども達を中心としていますが、大人も参加できるように実施しました。P10は今年一番来館者数が多かったイベントとして、2/11に行いました神楽祭です。世界遺産登録5周年を記念して開催しました。飲食や様々な体験ブースを設けて実施しました。画像⑬を見ていただくとわかりますがかなりのお客様が展示ホールに入りました。画像⑭では駐車場を活用して宗像のグルメ販売を行いました。画像

⑮の大型バルーン遊具は芝生広場を活用して行いました。館内だけでなく館外も含めて海の道むなかた館でこういったイベントがある、存在を含めてPRしていく、世界遺産5周年を契機にさらに当館を知ってもらう取り組みをしてきました。P11 ミュージアムコンサートは、3 ヶ月に一度当館に来て音楽を楽しんでもらうイベントとして実施しています。

むなかた歴史クラブは中高生を対象に開催しています。今年度は宗像高校にある宗像郷土館の史料を子ども達が整理し展示まで自分達で行いました。現在展示室の中に歴史クラブが作りました企画展が展示しています。帰りに見ていただけたらと思います。

P12 の館長講座ですが令和3年度から密にならないように定員を減らし同一内容の講座回数を分けて行っています。併せてインターネット配信も行っています。

第2展示室の企画展ですが、現在、新修宗像市史刊行記念パネル展を開催しております。このような形で皆さんにいろいろ見ていただくように第2展示室を活用しています。

○松久会長

それでは個々にわけてご意見を伺います。昨年からは会長をしています松久です。よろしくお願ひします。新たにご参加されている委員もいますので確認ですが、この協議会は昨年度の報告実績を読み取り、分析をし、質問をして内容を確認していくことと、将来に向けてむなかた館の魅力を最大限に革新するためにアイデアをいただくのがこの協議会の役割と思っています。今回出してくださいとお願いしていたのが別紙の主な意見を箇条書きでまとめた分と、ベタ打ちの議事録の作成をお願いしました。文章で残すところという意見があって実現したとか、実現してないけど理由はお金の問題だとか条例など決まり事で変えられないものとか意見が言いやすく確認しやすくなると思います。

今報告にありました来館者数やイベントについてご意見ありますでしょうか。

○坂梨委員

質問ですがP3の体験学習参加数でまが玉などの有と無はどういう意味ですか

○事務局井上

有料と無料です。外でイベントを行う時は無料が多いです。

○坂梨委員

外というのは外のイベントや九州歴史資料館などですか。

○事務局井上

イオンでの世界遺産啓発など実施しました。

○松久会長

有料と無料の場合は、売上のバランスはとれていますか。無料に関しては有料でキープした分をうまく活用されていますか。

○事務局井上

はい。特に世界遺産、海の道むなかた館を知っていただくということが目的です。

(3) 地域学芸員について【資料4】

○事務局井上

P13 について、海の道むなかた館のスタッフジャンパーを着た方が地域学芸員で、お客さんへの展示解説や体験学習の指導活動をおこなっています。また、世界遺産についての解説、学校がおこなう世界遺産学習の支援として研修等をやりながら主体的に指導をしていただいています。歴史文化に関する市民活動団体等の連携として、世界遺産市民の会等様々な事業をおこなっています。

地域学芸員の会は、話し合いを円滑にするため、運営委員会を立ち上げ、皆さんの意見を集約し窓口となって世界遺産課と話しをしながら進めています。令和4年度の事業として、第4期の地域学芸員養成講座を開催しました。新たなメンバー含め総勢90名で来月の4月から本格的にスタートします。

P14 では、今年度運営委員会で協議し、研修を実施しました。主な意見の中で、多くの地域学芸員が観光ボランティアと重複しているので、研修を合同でやることでより効果的になるのではないかとのご意見をいただきました。それを踏まえ、ハラスメント研修を観ボラのメンバー

と合同で実施しました。(3)は運営委員会で協議してプロジェクトチームを立ち上げて事業を実施しました。夏の課外授業、秋まつり、冬まつりのイベント等も地域学芸員の会として主催しました。松久先生には大変ご協力いただきました。このような形で運営委員会を中心に、新たな取り組みを企画し進めています。

○松久会長

ご意見お質問ありますか。現在75名が登録されていて養成講座受講終了予定の方が15名ということで、この15名の方は新しい方ですか。

○事務局井上

募集をかけての新しいメンバーとなっています。

○松久会長

現地域学芸員の方がこの養成講座を受講したいといった要望はないのですか。

○事務局井上

私たちの方にはなかったですが、例えば大島の研修を受けたいといったご意見がありましたので、個別に運営委員会で話をして実施しています。

○升谷委員

今回の4期生の方は非常に熱心で、刺激を受けています。シフトが皆さん月3～4回程度でなかなか一緒に会うことは少ないですが、新しい方も含め試行錯誤しながら活動していきたいです。

○青木課長

平成30年度に3期生養成講座を行いました。その時は1・2期生も再受講していいことになっていました。当時は接遇研修や大島研修がなく、現在は各研修を行っていますので、1～3期生は今回の養成講座に参加希望はなかったということになります。

○事務局井上

P14の(2)②体験学習研修は、いわゆる学び直しになります。運営委員会の中で、体験学習に少し不安があるという意見があり実施しました。また③世界遺産研修は随時勉強したいという意見を踏まえて毎年おこなっています。

○松久会長

研修の希望を大事にしながら、縦のつながり、ベテランと若い方が刺激を受けながら交流していくといいです。横のつながりでは観光ボランティアと合同のハラスメント研修でしたが、学び直しの研修は観光ボランティアさんと合同ですか。

○事務局井上

学び直しについては、地域学芸員のみです。

○坂梨委員

観光ボランティアも入会する時に10回程度の養成講座があります。新規の方と前の期の方が受講することを条件としています。会員の半分は地域学芸員になっているので、地域学芸員の養成講座に参加したいという要望はないと思います。

○松久会長

要望があった時に個別に対応していただきたいと思います。

○坂梨委員

昨年ハラスメント研修を合同で開催してもらいました。観光ボランティアの会独自では開催が難しい内容ですのでとてもいい機会でした。知識に関する講座は世界遺産課に協力いただき開催しやすいがマナー等は難しいので今後もお願いしたいと思います。

○青木課長

運営委員会が機能しているので、この流れを継続していきたいと思います。

○竹本委員

地域学芸員の年齢層、男女比はわかりますか。

○事務局井上

平均で73歳くらい、男女比は6:4くらいです。

○青木課長

平成30年は97人在籍でしたが20人くらいが退会されました。高齢化が問題となっていました。今回4期生として15人が入会されました。現役を引退された方が入会する事が多く年齢が高くなりますので、新しい方の受け皿を準備していきたいと思います。皆さん元気に精力的に活動していただいています。

○升谷委員

入会される方は宗像のことを知りたい、勉強したいという想いです。理想から言えばどちらの会も高齢の方が辞めて新しい方が入ればいいのですが、定年後も仕事を続けられる方が増え、若い方が減っています。皆さん意欲はあるが、行事によって無理をしている方もいますので自己管理が必要です。85歳以上の方もいます。

○事務局井上

そうです。車の免許を返納してもなおバスで通ってくださる方もいます。

○升谷委員

その方々にとって生きがいで、協力したいという気持ちです。

○坂梨委員

研修に救命救急の講習も追加していただきたいです。ボランティアの会も実施はしていますが、毎年受けた方がいいと思います。

○事務局井上

運営委員会で協議しましょう。

○坂梨委員

運営委員会が発足していろんな企画が出て学習内容も増え、活動の活発を実感しています。

○吉井委員

そもそも観光ボランティアや地域学芸員の募集の仕方を教えてください。

○事務局井上

地域学芸員は宗像市として市の広報誌等で募集をかけています。

○青木課長

観光ボランティアは商工観光課が同様に募集して、宗像の観光のボランティアの養成講座を開いていて、修了された方が選択肢として観光ボランティアの会に入られる。他には赤間宿のボランティアガイドに入ることもあります。

○吉井委員

年1回の募集ですか。

○坂梨委員

コロナで中止したことがありますが、毎年募集を行っています。

○青木課長

こちらは講師で行くこともあります。

○吉井委員

募集を逃すと翌年になるのですか。

○青木課長

観ボラさんは何回以上講座を受けて、欠席した場合はレポートを出す事が条件になります。地域学芸員は不定期で3期生は平成30年でしたので5年ぶりに募集しました。

○松久会長

不定期にしている理由はあるのですか。

○青木課長

特にないですが、3年に1回は見直していこうと思っています。今回は90名以上いた中で減ってきた事もあり今年が世界遺産登録5周年もありいろんな方がこちらを見ていただいたので募集をかけようかという事になりました。

○長友委員

例えば現役の観ボラさんや地域学芸員のお友達等がお誘いを受けて入りたい場合は、募集がないと入れないということですね。

- 事務局井上
そうなります。
- 青木課長
要望が多い場合があれば対応します。
- 升谷委員
人数が増えても活動する場所が限られています。また、シフトが増えると体がついていかない事もあります。よく活動されている方は会員の半分くらいの方になります。
- 事務局井上
地域学芸員の方も75人いますが、研修を実施した場合は40人強くらいの参加になります。
- 長友委員
適正な人員があるかと思うので、それに見合った方法でよいと思います。昨年、むなかたみあれ芸術祭が立ち上がり、当社と赤間宿でおこなわれましたが、ボランティアスタッフは市外の方が多く、かなりの数の作品が境内に出展され、ボランティアスタッフに苦慮していましたが、何かのネットワークで観光ボランティアを通じて地域学芸員の方にもご協力いただきまして、警備で来ていたボランティアの方はガイドもしたくないので、観ボラさんには大変感謝していました。今回は竹灯籠の申し出をしています。
- 事務局井上
今回の絵灯籠はLEDランプで実施しており、火は使用していません。
- 長友委員
神社としては毎年必要になってくるものなので、竹灯籠は保管し、LEDを下から入れるものを想定しています。
- 升谷委員
竹灯籠を作ってはみましたが、明りがあまり届かず試行錯誤しております。
具体的になれば協力していきたいと思います。
- 松久会長
みあれ芸術祭は来年も継続されるかと思います。ボランティアスタッフの連携など話し合う場があればいいと思います。
- 事務局井上
文化スポーツ課が所管していると思いますので、そこと話し合いしたいと思います。夏休みにこちらがイベントをして、当日に連携するような形になればと思います。
展示する場が、館内だけだと限られているので、いろんなどころとタイアップすれば、皆さんのモチベーションも上がると思います。
- 松久会長
昔は、熊越池公園で灯籠イベントをしていました。大学も展示作品を作ったりしました。ロウソクだと火が消えやすいなど問題があったので、LEDになっていきました。このイベントのノウハウはどこで尋ねればよいですか。
- 青木課長
赤間地区運営協議会です。
- 松久会長
様々な実際の問題点などを聞いてみたり、竹に穴をあける作業は重労働なので、こういった材料を準備するのか等、大きさもある程度決めてそろえた方がいいので連携すればとてもいいものになると思います。
ボランティアにかかわっている皆さんの役割は、年齢や健康状態、個性に併せて、違っていてもいいかと思います。例えば説明が上手な方や、作成することが得意な方もいらっしゃるかと思います。実際にはそのような事はありますか。
- 事務局井上
ワークショップについては試行錯誤してしまして、今は、運営委員会の中でおおいた方向性を決めて、これに関心がある地域学芸員の方に呼び掛けて、興味を持った方がやりがいをもって参加しています。

- 松久会長
実際されてどうでしょうか。
- 升谷委員
いいと思います。そうすることによって、地域学芸員の中で興味がある人材を見つけることができありがたいと思っています。
- 事務局井上
現時点ではその形がスムーズになっています。
- 松久委員
前回絵の体験で感じた事は、「絵が苦手なので参加しません」ではなく、まずは研修を参加していただき興味を持ってもらって、ゆくゆくは担当していただける可能性もあると思います。どこまで許容できるかを提案していただけると興味を持つきっかけになると思います。
- 事務局井上
事務局としては、地域学芸員の運営委員会を立ち上げて3年目ということで、まずは形にしていって経験と体験を積み重ねることを重視してやっていきたいと思っています。もう少し余裕ができる興味をもっていただけるような取り組みもできるかと思っています。
- 松久会長
臨機応変にいろんな意見を聞いてもらってタイミングがあれば今後検討していただければと思います。
- 坂梨委員
イベントについて説明がありましたが、今年は5周年で様々なイベントが開催されよかったと思います。来年以降のイベントはどうなりますか。
- 青木課長
まず、イベントは世界遺産課だけではなく、協議会や民間の皆さん色々な方々が世界遺産をテーマとして海を守る活動をしていただきありがたかったです。来年度以降については、継続できるものは継続していきたいと思っています。
- 松久会長
新規に何か考えていること等ありますか。
- 青木会長
新規はありませんが、今年度やったものを工夫したりの調整はあります。
逆に中学7年生を対象にした世界遺産学習のための沖ノ島遠望船体験は来年度ありませんが、大島での特別学習を検討しています。
- 松久会長
評価は高かったですか。
- 青木課長
総括は今からになりますが、来館者数やHPのアクセス数、アンケート結果をみながら一定の評価実施をしていきたいと思っています。
- 升谷委員
宗像市は宣伝が下手なのか、ご近所の方は世界遺産5周年についてはほとんど浸透していないように思います。
- 青木課長
真摯に受け止めたいと思います。現在テーマとして、教育と保全活動を中心に実施しており、保全活動については地島ビーチクリーンを実施しましたが、お断りするくらい多くの方の参加がありました。小中学生も多くの参加がありました。またユリックスで開催されたクイズ大会も多くの参加がありました。今年は20-30代のお客さんも多く、5周年のある程度の成果は出たかと思っています。
- 升谷委員
宗像大社の案内についてもコースを工夫してこちらの方に来ていただけるようにしたらいいかと思っています。
- 長友委員

入口で案内できる施設が今までなかったのが、今度喫茶が新しく出来たらむなかた館も案内できるような役割になってくれたらだいぶ変わると思います。

○青木課長

昨年の事例で言うと10月の3日間、2/11の計4日間芝生広場でキッチンカーのイベントがあったのですが、7,300人の来場がありました。県内の歴史資料館中では当館は来場者数は圧倒的に多いのですが、隣が宗像大社さんという立地の効果がありますのでまだ来館者数増の可能性がります。ハードだけではなくソフト面の充実大社と当館の回遊性を高めていく事が大切です。

(4)「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存と活用の取り組み【資料5】

○合島主幹

保存管理について、登録時ユネスコから追加勧告という形で宿題を出されました。一つは学術調査研究です。謎の多い資産ですので、引き続き調査・研究をするようにと言われており、先日その調査の報告会を行いました。近々本として出版する予定で、Webで公開していく予定です。次に構成資産及び周辺環境の保存管理で構成資産のモニタリングを行っています。沖ノ島周辺のクルーズ船などから構成資産を守るためにも続けています。年次報告書を取りまとめ報告しています。

緩衝地帯の保全について、構成資産だけでなく緩衝地帯も併せて保全をするように言われています。旧玄海地区、大島、沖ノ島、周辺海域が対象で、建物をつくるか広告を立てる、農地転用の届け出が必要で世界遺産の価値に影響がないか検証していきます。場合によっては市の景観アドバイザーに進言を求めます。遺産に影響がある場合は遺産影響評価をして、報告書を作成しユネスコに報告をします。最悪の場合、危機遺産に指定されたり、世界遺産抹消となりますので、構成資産だけでなく、周辺地域の景観保全が必要となります。指摘事項6のむなかた館の外観を大社とあわせる件は、賑わいを創出して大社からお客さんをこちらに誘導する事が有効な手段ですのでそういった対応をしていきたいと思ひます。

P16、17は世界遺産登録5周年記念事業の抜粋です。印刷物やWeb情報発信をし、こちらから出向き、イベントでパネルの展示や出前講座をしています。人材育成は3月下旬ごろ世界遺産検定をWebでできるように公開していきます。チーム対抗クイズ大会は小学生の30チームが参加し、ユリックスで行いました。展示は館で企画展を催し、九州国立博物館では連携展を行いました。イベントは館やユリックスでも行いました。入口は広く出口は狭くがポリシーで歴史に興味がある人だけでなく、いろんな人に見てもらい、世界遺産の大事さを伝えていきたいと思ひます。環境・教育は「世界遺産と、美しい海を、未来へ」をテーマに未来を担う子どもたちへ理解促進を図るもので清掃を中心とした環境保全活動を行ってきました。ロゴマークは令和3年度の「むなかた子ども大学」というワークショップで勉強し子ども達で作ったものです。このロゴマークをいろんな所で使用しました。ふるさと遺産学習の一環でクィーンビートルを貸し切り7年生が沖ノ島手前2キロまで船で行きました。中学生も世界遺産について学んでいますが、実際に沖ノ島を目にすることはインパクトがあり、生徒も先生も学びが深まったそうです。全校で予定していましたが、天候不良で延期した便があります。むなかた子ども大学では今年も世界遺産学習を実施しました。映像コンテンツ制作では今後のGIGAスクールで使用できるように制作しました。

この制作と7年生の沖ノ島遠望船は、前回の交流館協議会で7年生の世界遺産学習カリキュラムが不足していて、8年生は修学旅行でふるさと学習した成果をPRし、9年生はふるさとの良さをプレゼンテーションする機会があります。7年生のカリキュラムを充実させるために実際に沖ノ島を見てもらおうと行いました。また専門の講師の話や世界遺産登録に携わった職員の話聞く機会を設けました。

清掃活動についてですが、2050年には海洋プラスチックが海の魚よりも多くなる懸念があり、我々の世界遺産と海は密接な関係です。大社の宮司さんが「自然に神様が宿る」とおっしゃっており、世界遺産を守るために自然も守ろうというものです。4/9は地島ビーチクリーン、新日本プロレスとコラボして闘魂ビーチクリーンを行いました。11/13は「イイイサンノヒ」と

してスポーツゴミ拾いや吉武で行いました。国内の世界遺産の自治体にも声をかけて、10か所で清掃活動を行いました。6/19はラブアースクリーンでは、大島で解説を聞きながら清掃活動をしました。また北九州市や芦屋町、岡垣町も同じ海岸線なので一緒に世界遺産を守ろうと一緒に行いました。この時配布した軍手は新幹線や飛行機の座席の余り布で作成したものです。2/25の地島ビーチクリーンは定員の2倍の企業団体から申し込みを受けました。内陸のゴミが海に流れていくので内陸のゴミを拾ってきれいにすると同時にゴミを捨てない、海、海洋環境、そして私たちの暮らしを守る、世界遺産を守ることに繋がっていくことになります。

楽しみながら世界遺産について学ぼうと構成資産や施設をめぐるクイズラリー、展示やイベントをいくつか行いました。クイズラリーでは明治の産業革命の遺産と連携しました。こちらは範囲が広いので、難しいと思っていましたが、あっという間に景品がなくなりました。クイズラリーやスタンプラリーは根強い人気があります。

登録5年を経て見えてきた3つの課題に対応する3つのコンセプトを基にやってきましたが、評価は対応出来たのか、世界遺産が未来永劫継続していけるのかが一つの指標になると考えています。

○松久会長

何か質問や意見はありますか。

○升谷委員

地島クリーン作戦に参加しましたが、大勢だったのであっという間に終わり、達成感がありました。以前神湊の清掃活動に参加したときは、人数よりもゴミが少なかったです。韓国・中国のゴミが昔は多かったですが、最近は日本のゴミが目立ちます。川のゴミが流れて海にたどり着くということ、50年後人間と魚がどうなってしまうのかと思います。こういった清掃活動に参加しないとわからないです。どうぞ今後も続けて欲しいです。

○松久会長

参加人数も多いですし、企業から要望も多いので今後も是非継続して行って欲しいです。

○合島主幹

漂着ゴミですが、日本のゴミが本土と大島は50%、沖ノ島は日本、中国、韓国が1/3の割合です。海岸線でよく見るのが、シャンプーのボトルキャップです。わざわざ海に捨てに来るのは考えにくいので、普通に家庭ごみで出したつもりが、袋がやぶれて落ちて川に流れ海までたどり着いたのだと思います。海がこんなに汚れていて、世界遺産に悪影響を及ぼすことを実感しています。

○松久会長

そういった内容は小中学生の学習の題材として活かせるのではないのでしょうか。

○高橋委員

以前玄海東小にいまして、漂着ゴミを借りて学習の題材にしました。

本当に様々なゴミがあり、なんでこんな物がと思いました。沖ノ島の映像を見ましたが、子ども達は自分たちとどんなつながりがあるのか考えることが大事だと思います。今自由ヶ丘小にいますが、団地で歴史も浅く海から遠いですが、自分たちの地域の神社を学び、それにつなげて沖ノ島を知ることにつなげていきたいと思います。教職員は大量採用で若い先生が増えています。昨年宗像市と福津市の先生が初任者研修で沖ノ島の世界遺産学習に参加しました。子どもたちと世界遺産を学びつなぐ時に、まず先生が学ぶ必要があります。1年目～3年目の若年者の世界遺産学習を今後も続けて行けたらと思います。

○松久会長

先生向けのプログラムも実績としてできたので、今後も要望があれば使えますね。

○合島主幹

来年もやりたいと要望がきています。

○松久会長

先生を通して裾野が広がるといいと思います。

○青木課長

大島学園、玄海中学校の子ども達にも協力してもらい研修していただきました。来年も是非続

けていきたいと思います。初任者だけでなくいろいろ検討していきたいと思っています。

(5) 令和4年度文化財保護の概要について【資料6】

○白木参事

P18、17の文化財係の文化財保護事業についてご説明します。市内には国、県、市指定の合計77件の指定文化財があり、この保全事業について文化財保護法に基づいて色々な事業を行っています。史跡の現状変更をするときは届出がいきます。例年10件前後があります。3)の文化財の保存・管理についてですが、国宝の沖ノ島8万点の遺物の修理事業を継続的に進めています。大社の本殿の周りがある摂末社は、前の修理から50年以上経ち白アリ被害もありますので保存修理を行っています。写真にありますように屋根の木材を修理では元の木材を残しながらやっています。田熊石畑遺跡、愛称いせきんぐは国史跡です。東郷コミセンが市から共同委託を受けています。今年度初めて芝生を利用した東郷小の運動会が行われました。大変な面はありましたが評判は良かったと思います。来年度も継続していきたいと思っています。また古代フェスINいせきんぐでは、ビールも飲めるイベントで大変盛況でした。埋蔵文化財については、900くらいの件数が出ています。また大社の上高宮古墳がありますが、この出土遺物が神宝館に保存されており、それが世界遺産の研究に大変重要な古墳ということで文化財の方で測量調査をしています。市史編さん事業では、これまで2巻刊行していますが、「祈りとまつり」の刊行に向けて準備が整い、第2展示室で企画展示をしています。

○松久会長

摂末社の修理にも関わられるのですか。

○白木参事

はい。重要文化財に指定されており、事業の対象になっています。

○松久会長

摂末社は観光ボランティア的にはどういった解説をされていますか。

○坂梨委員

設立された当初のいきさつと立札に基づいて説明をしています。

○松久会長

一般の方がもっと興味をもてる何かがあったらいいかと思っています。

○白木参事

神宝館で国宝の保存活用計画がありますが、九州国立博物館の館長さんが見えて、国宝だけでなく、修理をしていく過程を知っていただくことも大事だと話しておりました。木の板にしても昭和40年代の中でも最高の材料を使用しています。いろんな人がかかわる中で最高の状態で残したいという思いが板1枚にもあるという説明があればまた関心が高まると思います。インターネット等の広報が大事だと改めて思いました。

○松久会長

世界的にもそういう事が観光資源になりえます。保存修復しているタイミングの一部をお見せしますとなると、逆にそれにお金を払う人が多くなる事もあります。そういった時に横とのつながりで観光課と大社とうまく連携できれば面白くなるかと思っています。

4 その他

○松久会長

貴重なご意見ありがとうございました。

ここで出た意見等をまとめたものが、市長が目を通したり各部署にまたがる内容がでてるので、どこかでイメージが結びつくと大きな事業に発展したりする事もあると思います。何かいいきっかけになればと思いますのでよろしくお願いします。

○事務局井上

任期は2年となっております。今回で最後となります。

今日いただいたご意見は次回の協議会でも引継ぎ審議していきます。

○青木課長

本日はありがとうございました。庁内では関係部署との仕組みがありますので情報共有をしていきたいと思ひます。次の連携事業に対しても調整を図っていきたく思ひます。今日の報告をしながら今後の事業に結び付けていきたく思ひます。引き続きご協力をお願いしします。委員の方々2年間ありがとうございました。